

麦の郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2025

こじか園/第二こじか園/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テル/麦の郷印刷/ソーシャルファームピネル/おぎピース/ソーシャルファームもぎたて/meglück(メグリユック) /六星舎/叶夢向/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷 紀の川生活支援センター/障害者就業・生活支援センター つれもて/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/ハートフルハウス 創/事務所/ゆめ・やりたいこと実現センター/ちいき暮らしサポートセンターわかやま/Rework支援センターANEW/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

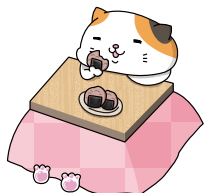
揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



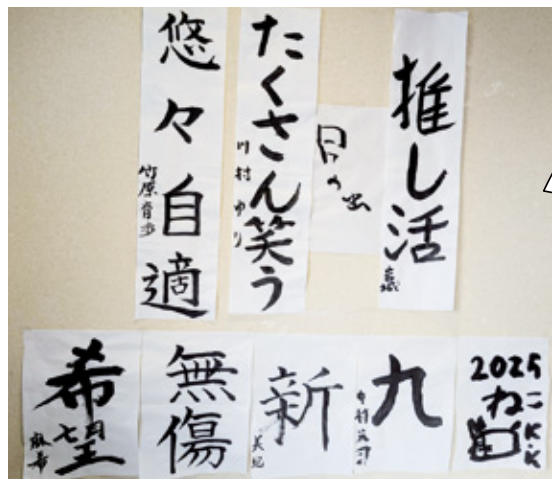
ハートフルハウス 創
12月25日(水)もちつき大会



六星舎
12月27日(金)大掃除



くろしお作業所 1月7日(火)初詣



麦の郷紀の川生活支援センター
1月6日(月)書初め

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





2025年の幕開けに際しご挨拶申し上げます。

昨年、いくつかのとてもうれしい体験をしました。

一つは、はぐるま共同作業所のなかまから「これあげる」といって黄色いてるてるぼうずのような人形をプレゼントして頂いたのです。そのなかまは、いつも「きのうなに食べた」と質問してくれます。この質問は、自分の記憶力との闘いです。

くろしお作業所のなかま達と一緒に、タオル折りの作業をした時に「それやぶれ。そこちがう」と検品の適切な指導を受け、正しく入れる箱を教えてくださいました。また、あたらしく建設した自宅に招いてくださると言ってくださったのですが、彼は、少し悩み、「うちにそれないからあかんなあ」と。彼の班が利用しているプレハブに入る時に使用するスロープが、自宅にないと心配しているのです。

くろしお作業所のなかま達と一緒に、タオル折りの作業をした時に「それやぶれ。そこちがう」と検品の適切な指導を受け、正しく入れる箱を教えてくださいました。また、あたらしく建設した自宅に招いてくださると言ってくださったのですが、彼は、少し悩み、「うちにそれないからあかんなあ」と。彼の班が利用しているプレハブに入る時に使用するスロープが、自宅にないと心配しているのです。

福祉の現場は、“やさしさ”と出会う“場”です。私たちが、生存・発達する為には、いくつかの“場”

が必要です。そのなかでも、もっとも大切な“場”が、深い悩みや、激しい怒りと出会った自分をコントロールし、「ちょっとゆっくり考えてみようよ」「もっとやさしくなるうよ」と声をかけてくる“場”です。

誰もが、深い悩みや激しい怒りをコントロールできなくなる時があります。その時、福祉の現場で、なんとも言えない“やさしさ”と出会い、自分を取り戻すことがあるのです。そんな素晴らしいさをもっている“場”ですが、その福祉の現場は、今、たいへんな状況を持っています。その代表的なものが人材不足です。

障害福祉現場は、給与や労働条件の問題、さらに、精神的・肉体的な負担が大きいにも関わらず、社会から適切に評価されていないところがあります。その代表的な言葉として4K(汚い、きつい、危険、給料が安い)と揶揄される言葉があります。私は、同じ4Kでもkindness(心やさしい)、肯定(自分が大切な必要な人間として認めることができる)、可能性(なかまや自分の人生の可能性を追求できる)、know(知見、知識)で表すことができる職種だと考えています。そうです。自分の人生の可能性ととことん向き合うことができる職場が障害者福祉の職場なのです。

ご家族のみなさん、地域のみなさん、私たち麦の郷のスタッフは、みなさんとともに今年もなかま達の幸せを追求します。

今年もご教示、ご鞭撻のほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。

(社会福祉法人一麦会・麦の郷理事長 山本 耕平)

* むぎ・わくわくレポート 24 *

元気なうた声が聞こえます。

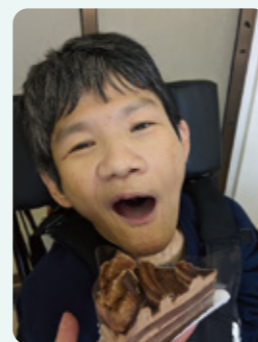
朝の送迎から帰ると、ゆいとくんが待っています。「園長先生、行こ」と声をかけてくれ、一緒に玄関に向かいます。彼は、ほとんどの職員の名前を覚えています。そして大好きな

歌「〇〇先生『にじ』うたう？」と声をかけます。「園長先生、ちゃんとうたうでー」「大川さん、『にじ』うたう？」こう言われると一緒に歌わないではいられません。彼のおかげで多くの職員や園児、保護者が「きっと明日はいい天気♪」とこの歌に励まされています。

(第二こじか園 山口 薫)

麦の郷の年男&年女
今年の抱負

1977年は
麦の郷と
同じ年ですね



くろしお作業所

もり ちあき
森 千晃さん
1965年生まれ

けんこうで
がんばる



はぐるま共同作業所 和の杜

いしだ りょうせい
石田 凌正さん
2001年生まれ

Q: 24歳になりますが、24歳になってやりたいことはありますか？
A: キャンプとかできたらいいな。山の中で料理をしたり、ゴルフとかしたい。



meglück

にした あかね
新田 亜夏音さん
1989年生まれ

また1年めぐりゆっく
頑張ります。絵と刺繍を
やっていきたいです。



はぐるま共同作業所

もり よしひこ
森 喜彦さん
1977年生まれ

今年からも赤い糸で
繋いで、フルパワーの
ガンダムみたいに元気
な森喜彦になること。
彗星の魔女エアリアル
みたいに。



麦の郷印刷

はざま としゆき のなか たかお
裕 俊之さん(左) 野中 孝夫さん(右)

2人ともに1977年生まれ

年(歳)男の2人で蛇のパワースポットである大神神社に参拝し、厄払い&運氣UPをお願いしました。「復活と再生」のシンボルである蛇にあやかり、12年後の還暦に向けて、日々成長で研鑽を積んでいきたいですね。

日々雑感 ②追想：洋子さんからの学び

小学校5年生の4月に洋子さん（仮名）が、私たちのクラスに転校してきました。

洋子さんは、脚が不自由で両側に松葉杖をついていました。彼女は、極端に細い人で、顔は真っ白でした。教室は二階にありましたが、彼女は、二階の教室に松葉杖を友達にもってもらい階段を這いながらやってきます。洋子さんは、同級生ばかりか他学年の学童からもいじめられていました。『同和教育』と『生活綴り方』の実践が活発に行なわれていた私たちの学校では、彼女に対する“からかい”や“いじめ”について授業のなかで学ぶ機会がありました。

もう60年も前のことで、どのような授業だったかは、忘れてしまいました。ただ、その授業の後、亮一君がリーダーとなり自分たちで、洋子さんが学校で困らない為に自分たちが何をしたら良いのだろうかを考えることが多くなったことは覚えています。小学校を

卒業する頃には、「中学校に進学した時、他の小学校から生徒が集まるから洋子さんのことを知らない生徒がいるはずだ。洋子さんと同じクラスになった人は、洋子さんの係になろう」と話し合うほど洋子さんは、私たちに多くの学びを与えてくれたのです。

しかし、小学校の卒業式には車いすで参加していた洋子さんの姿が、中学校入学式にはどこを探してもみつからなかったのです。彼女と同じ地区の生徒から洋子さんが数日前に亡くなったと聞いた時、小学校で同じクラスだった生徒は進学喜びはどこかにいってしまったように淀んだ表情だったのを覚えています。

幼い頃から病院での生活を送っていた余命短い彼女に、同じ学年の学童との生活を少しでも体験させてあげたいと思った両親が、私たちとの生活を彼女にプレゼントしたと聞いたのは、それから随分後のことです。
(理事長 山本 耕平)

麦の郷居住福祉事業所職員研修会開催

10月9日に麦の郷居住福祉事業所職員研修会を、開催しました。講師として麦の郷教育研修委員会委員長の山本哲士さんから、自身のおこなってきた生活支援実践と合わせて虐待防止の観点からも講義をいただきました。
(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

参加者からアンケートを抜粋して紹介させていただきます。



貴重なお話を聴かせていただき、ありがとうございました。

数々の仲間との関わりについて具体的な話に引き込まれました。

それぞれの仲間の歩んできた境遇、環境も、その人となりもよく観て接していることがよく分かりました。

日々の仕事において、自分の仕事のあり方を見直していきたいと強く感じました。

今日はとても勉強になるお話ありがとうございました。

一番大切なことは、相手のことを知ろうとし、共感し、信頼関係を築くことが何よりも必要だと理解しました。グループホームの場で、つい日々の業務に目がいきがちですが、仲間と一緒に共に楽しく、仲間のおもいを受けとれるように、すごしていこうと思います。

ひびきの郷で8年、あいあいホームで3年(3月で)になります。毎日楽しく過ごしているので、自分には不満などないです。お水が出ない時(水管橋が折れた時)の、トイレの介助が大変だったのを思い出しました。

- ・信頼関係を持てるようにする。相手の話もしっかり聞くようにする。
- ・相手に助言する時も言葉を選んで言う必要があると思う。
- ・一緒にいる事が支援と言ってくれたので、一緒にテレビも見たいと思います。

教育研修委員会主催 職員交流研修について

今年度で2回目の実施となりましたが、その発端は、法人の施設が増え、職員も増えていく中で、麦の郷の職員であってもお互いのことを知らない、自分が所属する施設以外ではどのようなことが行われているのか知らない職員が増えているという危機感から始まっています。

集合型の研修とは違い、所属施設とは異なる現場の仕事を経験できることが特徴です。具体的には各施設から1名ずつ参加者を募り、体験したい施設を選んでもらい、2日間の職場実習形式で行います。今回は10名の方に参加してもらいました。体験からの学びはもちろん、施設ごとの実践手法について



の意見交換により職員の見識を広げること、何より職員同士の横のつながりを強めていくことが大きな目的の一つです。

今回参加された方

からは、職員間で日常的にコミュニケーションを取っておけば、利用者のことでトラブルが発生してもすぐに対応できることを実感したという声や、仕事はチームとして目標を決めることで団結力が生まれ、そのために話し合うことで意識が変わり、より『仕事』に対するモチベーションが上がると感じたという声が聞かれ、誰かと協力しながら対応することの大切さを感じてもらえたのではないかと思います。

私たちの仕事は、利用者との1対1対応で完結する仕事ではありません。ご本人を取り巻く多くの関係者と連携・協力し、より多くのアイデアを出し合うことで課題解決を図っていく必要があります。そのための第一歩として、この研修が麦の郷内部の連携強化につながればと考えています。

職員交流研修は、参加者、受入れ施設の皆様の協力があって初めて成り立つ研修です。今後もより良い研修にしていきたいと思っています。

(教育研修委員 氏原 嗣朗)

5歳児活動『保育所交流会』

11月14日(木) 地域の子どもたちと一緒に遊び交流する場を設けたい…という保育者の思いから、近くの保育所との交流会を行いました。

5歳児の子どもたちは、初めての事や場所・人に緊張する様子があります。そんな子どもたちに事前に保育所に行くことを伝えると、予定の書いてあるカレンダーのイラストをみて期待していました。また、いつもと違う流れにソワソワしている子どもたちもいました。

当日を迎え、いざ保育所に出発！玄関で出迎えてくれた保育所の所長先生にワクワクした表情で行きました。園庭にある遊具を見るなり、先ほどまで緊張していたとは思えないほど嬉しそうな表情で遊具に走って行きました。

最初は自由に遊んでいた子どもたち。保育所の5歳児達が鬼ごっこを始めると“ナンダナンダ？”と近づいていき、一緒に鬼ごっこがスタート！ルールよりもおいかけて遊ぶのが楽しい様子でしたが、鬼になると帽子の色が変わるというルールを理解すると、



鬼が来ると一生懸命逃げまわりました。捕まると「ヨーシ！ボクガオニ！」と、満面の笑みで鬼ごっこを楽しみました。他にも、乗り物を乗りこなす我が園の園児の後ろを保育所の園児が乗り物で並んで走っていたり、鉄棒で宇宙返りを披露すると大きな拍手をもらったりし、ほっこりする嬉しそうな姿もみられました。

保育所の子どもたちと一緒に笑顔で遊び、楽しむことができる機会となりました。これからも交流を続けていきたいと思っています。

(第二こじか園 阪井 野乃)

旅行特集



はぐるま共同作業所 和の杜
11月15日(金)~16日(土)大阪・兵庫



はぐるま共同作業所
11月10日(日)~11月12日(火)長野



むぎピース
11月5日(火)白良浜



叶夢向 10月18日(金)兵庫



麦の郷印刷 9月6日(金)京都



はぐるま共同作業所 ラ・テール
9月26日(木)~28日(土)伊豆



ソーシャルファームピネル
10月26日(土)~27日(日)山口

こじか園 山口文化祭



11月3日(日)山口文化祭で5歳児の子どもたちがステージ発表に出る機会を頂き、園の運動会で披露した『ヤーレンソーラン!舟を出せ!』を鳴子を使って踊りました。初めてのことや注目されることが苦手な子ども、大きな音が苦手な子どももいるので心配も少しある中、いざ本番!舞台の幕が開くと、リハーサルとはまた違う雰囲気緊張する子や“なんか違うな”と感じ、じーっと客席を見る子もいましたが、繰り返し楽しんで踊ってきた踊りを自信を持って踊ったり、自分のタイミングで鳴子を鳴らしたり、ポーズを取ったり…と緊張に負けない、たくましい姿でした。客席の地域の方々からも温かい拍手を頂き、また一つ、子どもたちにとっての自信になっただろうと思います。
(こじか園 前田 琴美)

麦の郷和歌山生活支援センター わされん北部スポーツ大会に参加しました



11月29日(金)岩出市立体育館にて第2回わされんスポーツ大会が行われました。各事業所から総勢100名を超える参加者でした。前半はO×クイズ。事業所にちなんだクイズのO×や時事ネタなどを1問1問に100人越えのなかまがOと×に分かれて動く姿が意気揚々としていました。後半は、ポッチャ。赤と白のチームに分かれ、5つのコートで競いました。なかまの顔は真剣そのものです。勝ったチームは飛び跳ねて喜び、負けたところは悔しくも、次は勝つぞ!と意気込んでいました。ゲームが終わりいよいよ集計です。赤の勝利か白の勝利か、全員が発表を心待ちにしています。結果は…同点!全員が楽しく笑い合っているのがとても印象的でした。来年も楽しく盛り上がるとういですね。
(麦の郷和歌山生活支援センター 濱田 麻里)

「青洲まつり」時代行列に ゆめやりメンバー3人が参加しました



10月27日(日)前田泰誠さん(荷幸役)、宮本あかねさん(村の娘役)、堀愛華さん(村の娘役)が、紀の川市内の祭りに出演(写真左から)。慣れない草履と着物をして長時間歩くのは、とてもしんどい体験でした。しかし、感想を聞くと「疲れたけど、みんなで挑戦して楽しかった」「地域の人たちと話ができて嬉しかった」「来年もみんなと挑戦したい!」。新たな夢が生まれた3人からは、輝く笑顔が溢れていました。
(ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方 千春)

